

団体名 八重瀬町教育委員会	連絡先 TEL : 098-998-7571 Eメール : gakkou-k@town.yaese.lg.jp
-------------------------	--

1 実践事項 (①)

タイトル：「町内こども園・小中学校と連携した研修の取組実践」

本町では、町教育委員会の研修において、教員の資質向上や実践力の向上を目指した取組を行っている。児童生徒の学力に係る内容では、各校の学推担当者研修において各学校の実践事例を共有して各々の学校の校内研修に活かせるように企画してきた。また、保こ小連携事業では、保育園、こども園の育ちを小学校の学びにつなげることを目的に、各校区ごとに校種の異なる職員が参加できる授業参観を設定したり、小・中学校の初任・中堅研の研修においては、こども園での保育体験実習を取り入れて幼児教育との相互理解を図った。

2 実践内容

本年度の教育実践では、主に下記の2つの取組を重点において取り組んだ。

(1) 小・中学校の学推担当者研の取組

4月には、各校の研修において学習面における課題となっている内容をあげ、解決するために必要な手立てについて検討し、毎学期ごとに、成果発表会を行い、町内学校間の情報共有を行った。1学期末には自校の実践について発表し、取り組み内容の事例紹介をと、2学期末には全国学力調査の結果分析を中心に学習の達成度についての確認を行った。

(2) 小・中学校の初任・中堅研の保育体験実習

幼児教育を通して、自校の学級経営や学習指導に活かすことを目的として取り入れた。本年度からの初の試みで、幼児期の教育における非認知能力の育成について理解を高めることをねらいとしている。体験前の事前研修では、こども園教諭より、こども園での幼児との関わりや教育方針等について説明してもらい、体験実習本番に向けた内容を行った（別添資料「広報やえせ」参照）。

3 説明資料

<p>国語【県より6P・全国より1P上まわる】</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文の中の問われている部分をおさえることができていない。何が問われているかをよく読み取っていない。 ・文や文章の中で、前半のうちに答えが出たと判断したら、後半部分までいねいに読む生徒が少ない。 <p>対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文の中で問われている部分や解答条件となる部分に線を引く等して、条件に沿った解答ができるようにする。 ・解答文のひな形を使って答える練習をする。もしくは、模範解答で、答え方の例を示して解説する。
<p>数学【県より6P上まわる】</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考・判断・表現等を問う説明問題や証明問題に課題がある。 ・数学用語を使い説明することが不十分である。 <p>対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元に核となる授業を設定し、思考・判断・表現等を問う問題を計画的に設定した授業改善に努める。 ・数学用語などの数学的表現や根拠をもとに筋道を立てて説明し合う場面を取り入れた授業展開に努める。 ・授業と連動した宿題の内容に全国学調や県到達度調査の類似問題を出題し、年間を通して説明する力を鍛える。

<p>英語【県より3P上まわる】</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語句の意味を理解していないと、まとまりのある文章を読んで概要を捉えることができない。 ・一文一文は書けるが、文構成を考えてまとまりのある文章を書くことができない。 <p>対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一文一文の英文の意味を正確に読み取る技能だけでなく、前後の文のつながりを考えて読む指導を行う。 ・短い文章の概要を捉えられるような帯活動を行う。 ・まとまりのある文章を書く際に、語い数を設定して書かせる。
--

具志頭中学校では、学力の定着度のみとりとして、全国学力調査の結果をもとに、課題と対応策の分析を行った。国数英の3教科の問題の解答状況より、理解度の内容の分析を行うことで具体的な手だてについて検討した。日常的な取組としては、授業内容と連動した宿題を計画的に取り入れて実践を進めた。本内容を学推研で各校で共有することができた。

図1 全国学力調査の課題と対応策（具志頭中学校）

東風平中学校では、全国学力調査の結果分析を活かして、共通する課題を提示し、全教科において共通の取組実践を行った。確かな学力の定着を図ることを目的として、校内研修のテーマと結びつけた設定を行うことで、学校全体で組織的に取り組めるように工夫した（図2）。東風平小は、各項目ごとに分析データより学習の定着度の確認を行った（図3）。また、白川小は「思考・判断・表現」を思考ツールとして具現化を図った（図4）。

分析 → 共通する課題 → 共通取組

国語	○工夫されている表現を取り上げて書くことはできる。 ●どのような工夫があるのかを書くことが苦手
数学	●無答が多く、どのように解決すればよいか方向性が見えない。 ●数学的な用語（連立方程式・解・交点・x軸・y軸）を用いた表現に課題
英語	●書くことについて抵抗がある生徒が多く、一貫性のある文章を書くことが苦手

図2 全国学力調査の課題と対応策（東風平中学校）

分析 → 共通する課題 → 共通取組

(1)自ら課題を見出し、知識及び技能を活用して課題解決に取り組む活動を行う。



分析 → 共通する課題 → 共通取組

(1)自ら課題を見出し、知識及び技能を活用して課題解決に取り組む活動を行う。

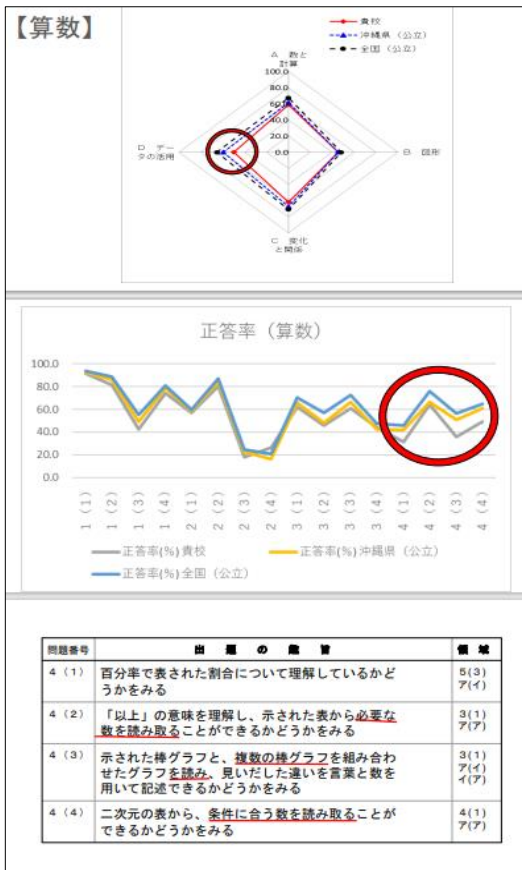


図3 全国学力調査の課題と対応策（東風平小学校）



図4 「思考・判断・表現」の思考ツール（白川小学校）

4 成果と課題

今年度は、コロナ禍より徐々に落ち着いてきた背景より、参集型の研修の機会が増えてきた。町教委の研修を工夫して、内容の充実と資質向上に力を入れて取り組むことができた。学推研では、県外の先進校の視察研修やこども園の体験実習ができたことが成果としてあげられる。課題としては、学力向上のみならず、働き方を改革を意識した教員にとって実りある研修内容の精選等が求められる。

八重瀬町保こ小連携「架け橋プログラム」だより

～保育園・こども園の“育ち”を小学校の“学び”につなげよう～

4月と5月に町内全小学校で授業参観が行われました。入学した児童が幼児教育における遊びや生活を通した育ちと学びを基盤として、小学校でも主体的に取り組む様子が見られました。

① 小学校区での授業参観「東風平小学校」「白川小学校」「新城小学校」

町内のどの小学校へ就学しても同じスタートができるようにしています。

② 全体研修会「具志頭小学校公開授業」

5月18日、第1回接続期研修会「スタートカリキュラム公開授業」が具志頭小学校で開催されました。保育園、こども園、小学校、琉球大学の学生、学校教育課、児童家庭課、糸満市、豊見城市から52名の参加がありました。

【公開授業当日】

〈登校後の朝の時間〉

① 公開授業前の意見交換

国語の授業につながることを事前に保育園やこども園の先生方から、保育園やこども園での姿を語り合いました。普段の生活からスタートした授業となり、子どもを中心とした接続が可能となります。



② 国語「主語と述語」文をつくろう

絵や日常の生活の中から「〇〇が」「〇〇する」の文づくりをしていました。ねらいは、主語と述語の関係にきづいて、文をつくることです。子どもたちが自分の考えを出し合っていました。

子どもたちは登校後、身支度を整えて好きな遊びをして過ごします。園で遊んでいた遊びを取り入れることで、子どもたちも「知っているよ」「保育園でやってたよ」と安心感や意欲的に取り組んでいました。入学当初は、好きな遊びができる時間と場が準備されていました。

公開授業に参加した保育士(町内保育園・こども園)の感想

- この時期の授業参観は、卒園した子どもの様子を知ることができたので良かったです。
- 各クラスとも、クラスの実態に応じた指導方法が工夫されていました。
- 子どもたちが楽しく学べるような工夫があった。入学して1カ月と思えないほど落ち着いていました。
- 授業の心構えなど、学校生活(授業・休み時間)での子ども同士の関りが見えました。
- 担任の先生の目のかけ方、声のかけ方等、保育に生かしていきたい場面がたくさんありました。
- 保育園やこども園での育ってきたことが発揮できるように、小学校の先生が丁寧に生活や学びに繋げていた。うれしかったです。

【グループ協議】

【研究協議会の様子】

Next.....

保こ小連携事業は年間を通して継続的に取り組んでいます。今後は、ぐしかみこども園公開保育、具志頭保育園の公開保育・幼児と児童の交流活動、小学校の先生の保育参観、合同研修会が予定されています。小学校の教育のどのような場面につながるかを一緒に考えています。

